

雲仙地獄は湯けむり天国♪

2008年11月8-9日 西日本大会（長崎県雲仙市）

三条 OLC
藤島由宇

昨年5月の全日本トレイルO選手権に続き、今度は2日間の西日本大会 in 長崎。紅葉が進む雲仙・普賢岳の麓、「ゴルフ場」「温泉街」という普段のオリエンテーリング大会ではあり得ないテレインを200名のオリエンティアが駆け巡った。

■日本最古のゴルフ場でスプリント&トレイルO■



紅葉の普賢岳を望む雲仙ゴルフ場

1日目のテレインは「雲仙ゴルフ場」。このゴルフ場は1913年（大正2年）8月14日に、日本最古のパブリックコース、すなわち誰でも平等にプレーができるゴルフ場として長崎県の県営でオープンした（これに対して会員制を採用するのがメンバーシップコース）。

12時半頃に開会式が行われたが、司会の川田金太郎さん（昨年の全日本トレイルでも司会を務めた）が「森の大運動会にご参加の皆様…」とアナウンスする。

「森の大運動会」とは、この雲仙ゴルフ場を貸し切るためのアイデア。地元でNPOを立ち上げている長崎県オリエンテーリング協会事務局の仲尾勝利さんが、オリエンテーリングだけでは費用の点から貸し切るの難しいとして地元のマレットゴルフ団体に働きかけ、「フットオリエンテーリング」「トレイル・オリエンテーリング」「マレットゴルフ」の3種目を行うという計画で、雲仙市の協力も得て開催されたのがこの西日本大会なのであった。



左：司会の川田金太郎さん
右：今大会の仕掛け人・仲尾勝利さん（開会式にて）

■スプリント競技■

MEのコース距離は2.9km、登り90m。トップの松澤俊行選手のタイムが16分07秒なので、1キロあたり約5分半のスピード。ゴルフ場だからといって平坦な訳ではなく、90mの登りはスプリントにあっては心臓と脚を試すに充分足りた（結構しんどかったです（笑））。また片斜面の開けた土地なので、スキー場のテレインにも似た印象を受けた。違いはグリーン（立入禁止）が点在することだ。このグリーンを避けたり、あるいは走行中の現在地確認に用いたりする所にゴルフ場でのオリエンテーリングならではの楽しさを感じる事が出来た。

■トレイルO■

トレイルOはスプリント競技の終了後にフラッグが設置され、引き続き同じテレインで行われた。ゴルフ場でのトレイルOもちろん日本初。

パラリンピック・クラスには大阪の木島、長崎の蓮本、柏木ら日本代表経験者がごぞって参加。彼ら車イス利用者は、ゴルフ場に配備されているカートに乗っての競技となった。



Pクラス選手が利用したカート

Pクラスの参加者は車イスからこのカートに乗り換え、カート道を行き来した。カートには運転手と介助スタッフも同乗し、参加者は運転手に前進・後退の指示をして様々な角度からフラッグを見極め、解答を行ったのだ。カート文化（？）のある日本のゴルフ場ならではの大胆な手法が採用されたのであった。



1日目のマップ。9ホールがコンパクトに収まり、林や川、池も備える。

コントロールに関しては、位置説明や地図の表記が不適切であったために2カ所がキャンセルとなったが、総じて等高線を読ませる課題が多く難易度も適切であったという感想を持った。一時霧が会場全体に立ちこめ、あわや不成立か…? という心配もされたが、霧は短時間で晴れ、無事に大会1日目は終了した。

■2日目・ミドル競技■

2日目の舞台は雲仙温泉街。フィニッシュが温泉街中心部の広場に設定され、終盤はその温泉街のメインストリートを駆け抜けるというこれまた大胆かつユニークなコースが提供された。

M21Aのコースは、序盤は道を利用し、中盤は川の流れる沢周辺の植生が良いエリアを用いて細かく繋ぎ、終盤はプリント的に温泉街を駆け抜けさせるという内容。特にこの終盤のレッグは国道脇の歩道を通るため温泉宿泊客も多く、「みて！おじいちゃんくらいの人がいっしょうけんめいはしゃげるよ〜！」という小さな女の子の驚いたような声も沿道で聞かれた。



最終盤、雲仙地獄を駆け抜ける選手

WE優勝の酒井佳子選手 (Team Ski-0)からは「トレインがゴルフ場など、いつもと違うオリエンテーリングを楽しめた。コースの設定上、スピードの出る走りが出来た。」と感想をいただいた。

これまで数々の魅力的なイベントをプロデュースし続けて来た長崎。次のイベントを早くも期待せずにはられない。



WE 総合優勝の酒井選手 (右) と 2位の朴峠選手 (左)



左から ME 総合3位の小山、優勝の松澤、2位の新 (あらた) 各選手

(藤島由宇)



2日目のマップ